

小・中 合同

令和4年度

教育研究員報告書

図画工作・美術

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	
1	研究の視点について	1
2	実態調査	1
3	研究の視点による授業観察	3
4	手だて表について	4
III	研究仮説	5
IV	研究の方法	
1	基礎研究	5
2	実践研究	5
V	研究の内容	
1	研究構想図	6
2	検証授業①	7
3	検証授業②	11
VI	研究の成果と課題	
1	成果	15
2	課題	16

研究主題

自分らしく表現したり追求したりする児童・生徒の育成

I 研究主題設定の理由

令和3年度から全面実施となった「中学校学習指導要領」美術編では、主体的で創造的な表現の学習を重視し、「A表現」(1)において、「ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ 目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付け、表現の学習において、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視して表現領域の改善が図られた。「中学校学習指導要領解説美術編」には、「主題を生み出すこと」は、「A表現」(1)ア及びイの指導事項について学習を進める上で基盤となるものであり、発想や構想を高めるための重要な部分であることが示されている。

「主題を生み出すこと」について「小学校学習指導要領解説図画工作編」では、「A表現」(1)イにおいて、低学年及び中学年で、「表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考えること」、高学年で「表したいことを見付けることや、どのように主題を表すかについて考えること」と示されている。高学年では、「特に、主題の発想については児童自身が行うことを大切にするとともに、児童が自分の考えや活動を問い続けていくような指導の工夫が重要である。」と示されている。これらのことから、「主題を生み出す（表したいことを見付ける）」ことは、小中学校を通して、重視されていると理解することができる。

日々の実践を振り返ると、児童・生徒が表したいことを思い付いたり、主題を生み出したことや、自己の表現を造形的な視点で捉え直し、表現を追求し高めていくことについて課題があると実感するところである。児童・生徒の実態を把握するために実施した実態調査からも教育研究員の実感と同様の課題が見いだされた。このことから、本研究の主題を「自分らしく表現したり追求したりする児童・生徒の育成」と設定した。

II 研究の視点

1 研究の視点について

本研究は、(1)「活動意欲を高める」、(2)「主題を生み出す」、(3)「主題を深める」の3点を研究の視点とした。これらの視点は、以下の実態調査から導き出した。

2 実態調査

- (1) 対象 教育研究員が所属する小学校に在籍する第5学年児童 299名
教育研究員が所属する中学校に在籍する第2学年生徒 364名
- (2) 方法 質問紙法（WEBアンケート）
- (3) 調査結果

「(1)『活動意欲を高める』」に関わる調査結果

ア 「図画工作の学習が好き」・・・小学校 92% ※小数第一位を四捨五入。以下同様。

- 「美術の学習が好き」・・・・・・・・・・・・・・・・・・中学校 80%
- イ 「図画工作の授業をすると、毎日の生活が楽しくなる」・・・小学校 77%
- 「美術の授業が生活に活かされることがある」・・・・・・・・・・中学校 51%

アに対してイが小学校は 15 ポイント、中学校は 29 ポイント低く、学習を楽しんでいるものの、学習の意義や価値を実感することに課題が見られた。このことから、児童・生徒が学習を生活や社会と関連させて自分事として捉え、活動意欲を高めていくための手だてを検討することとした。

「(2)『主題を生み出す』」に関わる調査結果

- ウ 「授業で描きたいものやつくりたいものがあまりない、全くない」
 - ・・・小学校 23%
 - ・・・中学校 42%
- エ 「どのような時に描きたいものやつくりたいものを思い付くか。」（複数回答可）に対する回答が多かった項目
 - ・「材料などを見たり触ったりしたとき」・・・・・・・・小学校 67% 中学校 51%
 - ・「身の回りのものや、景色などを見たとき」・・・小学校 53% 中学校 54%
 - ・「いろいろな作品を見たとき」・・・・・・・・・・小学校 56% 中学校 50%
 - ・「友達の活動や作品などを見たとき」・・・・・・・・小学校 51% 中学校 46%

ウは、主題を生み出すことに関連して設定した質問である。全ての児童・生徒が主題を生み出すことができるよう、手だてを検討する必要があることから、エの回答を、児童・生徒が主体的に主題を生み出すために有効な手だてとして指導計画に組み込むこととした。

「(3)『主題を深める』」に関わる調査結果

- オ 「授業で描いたりつくったりしているときに、さらに考えたり工夫したりしている、どちらかといえばしている」
 - ・・・小学校 81%
 - ・・・中学校 84%

オは、表現を追求し高めていくことに関連して設定した質問である。多くの児童・生徒が「行っている」と考えていることが明らかになった。このことについては、教師の考える「主題を深める」という姿と解離があると考察した。そこで、本研究では、児童・生徒が、造形的な視点を持ち、自己の表現を追求し高めていくことを「主題を深める」として、手だてを検討することとした。

以上のことから、本研究では、実態調査から得られた研究の視点に基づき、題材の特徴や児童・生徒の実態に応じて手だてを整理し、適切な場面で実施することにより、研究主題に迫ることとした。

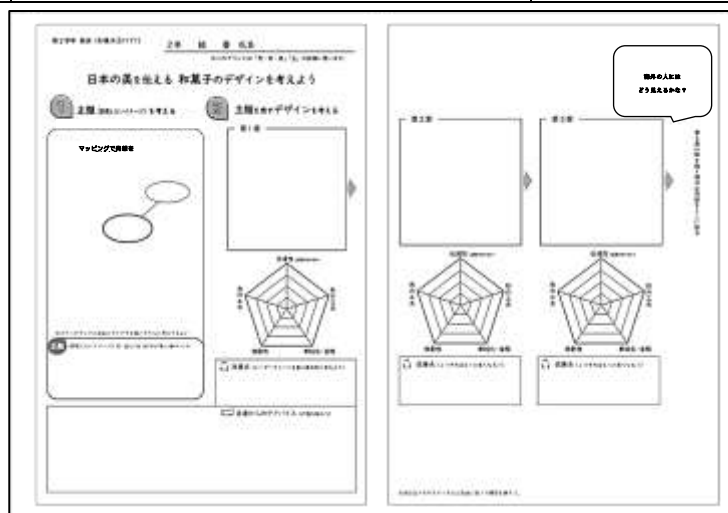
3 研究の視点による授業観察

(1) 題材名「世界に発信！日本の和菓子 ～日本の美を伝える創作和菓子をつくろう～」
(中学校第2学年)

「A表現」(1)イ(イ)、(2)ア(ア)イ 「B鑑賞」(1)ア(イ)イ(イ) 【共通事項】(1)アイ

(2) 題材の指導計画 (全6時間)

次	時	○ 主な学習内容・生徒の活動	◆ 指導上の留意点 ◇ 教師の支援
第1次	1 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和菓子の鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ・ 12枚の和菓子カードを分類し、和菓子が表現している四季の美しさに気付く。 ○ 主題を生み出し、構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台端末を活用し、イメージマップなどににより日本の美を表す言葉を出し合う。 ・ 世界に発信したい日本の美を考え、オリジナル和菓子のアイデアスケッチを行う。 ○ アイデアの再検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチをレーダーチャート(図1)で分析し、改善点を考える。 ・ デザインについて、友達と助言し合い、アイデアを見直し修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 和菓子は、四季の美しさや和歌など伝統や文化と深く関わっていることに気付くようにする。 ◆ 1学期に国語で学んだ「枕草子」や、第1学年時に学んだ特別の教科道德の「古都の雅 和菓子の心」についても触れ、他教科との関連を図る。 ◇ イメージマップなどを活用して意見交換することにより、生徒が多様な視点から日本の美に気付き、その中から自分の主題を考えることができるようにする。 ◆ 造形的な視点を基にアイデアスケッチを改善できるように、対話を設定し、主題の追求を促すようにする。
第2次	4 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 樹脂粘土による制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作方法や順序を総合的に考えながら、粘土に着色し、成形する。 ○ PRカードに和菓子の説明をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 基本的な制作の順序を動画で参照できるようにしておき、生徒が動画を基に表現を追求することができるようにする。 ◇ 思いのとおりに表現できない生徒には、用具の使い方の工夫などを助言し、生徒の創意工夫を促す。
第3次	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞会と題材のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材を通して、どのような力が身に付いたかななどを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分らしく主題を追求し表現できたかなどについて、振り返ることができるようにする。



(図1) レーダーチャート

(3) 研究の視点を基に見取った生徒の姿

本授業から、研究の視点ごとに次のような生徒の姿を見取ることができた。

ア 「(1)『活動意欲を高める』」

- ・ 導入時に、デジタル機器を活用して、映像や写真など、造形的な視点をもって鑑賞できる資料を用いて鑑賞活動を行うことにより、活動への意欲が高まっていた。

- ・ 他の教科等と関連付けた題材設定により、活動意欲が高まっていた。

イ 「(2)『主題を生み出す』」

- ・ イメージマップやアイデアスケッチなど、発想を広げることができるワークシートを取り入れることが、主題を生み出すことにつながっていた。

ウ 「(3)『主題を深める』」

- ・ 自己の主題や表現について、レーダーチャートなど、ワークシートを用いて捉え直すことにより、生徒が自己のアイデアに課題を見いだすことができた。
- ・ お互いのアイデアスケッチに助言し合うなど、造形的な視点を基にした対話により、生徒は自己の主題を再考し、表現を変容させようとしていた。

(4) 有効な手だての考察

本授業を通して、研究の視点ごとに有効な手だてを以下のとおり考察した。

ア 「(1)『活動意欲を高める』」

- ・ 鑑賞活動や児童・生徒が自己の変容を確認したりするために、一人1台端末など、デジタル機器の活用を行う。
- ・ 他の教科等と関連付けるなどして、児童・生徒が自分なりの意味や価値を見いだすことができるような題材を設定する。

イ 「(2)『主題を生み出す』」

- ・ 発想や構想、アイデアスケッチや対話などが苦手な児童・生徒への手だてとして、一人一人に合った表現の追求方法を選択できるようにする。

ウ 「(3)『主題を深める』」

- ・ 児童・生徒が自己の主題や表現を造形的な視点で捉え直し、再考するきっかけとなるよう、教師の問い掛けを設定する。

4 手だて表について

「研究の視点」及び「研究の視点による授業観察」で見取った生徒の姿及び考察した有効な手だてを整理し、「手だて表」(表1)を作成した。「手だて表」には、研究の視点及び研究の視点に対応した目指す児童・生徒像を設定し、具体的な手だてを掲載した。この「手だて表」を基に、指導計画を作成し、手だてを計画的に行うこととした。

(表1)「手だて表」

研究の視点	目指す児童・生徒像	具体的な手だて
(1) 「活動意欲を高める」	学習に自分なりの意義や価値を見だして、意欲的に学ぶ児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の教科等と関連付けるなどして、児童・生徒が自分なりの意味や価値を見いだすことができるような題材設定 ・ デジタル機器の活用などによる、表現と関連した鑑賞活動の設定 ・ 材料や用具、表現方法などの複数提示
(2) 「主題を生み出す」	自分の思いや考えを大切に、表したいことや主題を生み出す児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージマップ、アイデアスケッチなど、発想を広げるためのワークシートの活用 ・ 材料や用具を試す時間の設定や、互いの活動を見ることができる場の設定

<p>(3) 「主題を 深める」</p>	<p>主題や表現を捉え直しなが ら、自分の表現を追求する児童・ 生徒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の主題や表現について捉え直すためのワークシートの活用 ・ 児童・生徒同士の対話的な学びの設定 ・ 造形的な視点で主題や表現を捉え直すための教師の問い掛けの設定
------------------------------	--	---

なお、手だてを行うに当たり、以下の3点に留意した。

※ (1)「活動意欲を高める」は、「学びに向う力、人間性等」に関連することから、題材全体を通して手だてを行うものとする。

※ 「中学校学習指導要領解説美術編」に、「必ずしも主題を生み出してから構想を練るという順序性ばかりではないことにも留意し、生徒の個性を踏まえて、一人一人が主題を生み出していく過程を重視した指導の工夫が大切である。」と示されていることから、

(2)「主題を生み出す」、(3)「主題を深める」の2つの視点は順序性がないものとする。

※ 児童・生徒の学習の過程に応じて最適な手だてを講じていく。

III 研究仮説

本研究の研究仮説を以下のように定めた。

題材において、「活動意欲を高める」、「主題を生み出す」、「主題を深める」手だてを計画的、効果的に行うために、「手だて表」を用いて児童・生徒を取り巻く環境などから手だてを整理し、授業を行うことにより、児童・生徒は自分らしく表現したり追求したりできるようになるだろう。

IV 研究の方法

1 基礎研究

- ・ 「実態調査」
- ・ 「平成 24・25 年度 小学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)
- ・ 「平成 25 年度 中学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)
- ・ 「平成 25 年度 学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点」(国立教育政策研究所)

2 実践研究

研究仮説に基づき、以下(1)から(3)までの流れを踏まえて、検証授業を2回実施し、仮説の検証を行った。

(1) 「手だて表」の作成

「(1)『活動意欲を高める』」、「(2)『主題を生み出す』」、「(3)『主題を深める』」児童・生徒の姿を基に、「手だて表」に手だてを整理する。

(2) 手だてを明確にした指導計画の作成

「手だて表」に整理した手だてを指導計画に反映し、児童・生徒の学習過程に応じた最適な手だてを行う。

(3) 手だての検証

授業において、児童・生徒が自分らしく表現したり追求したりする姿を見取ることにより、「手だて表」を用いて整理した手だてが計画的、効果的であったかを検証する。

V 研究の内容

1 研究構想図

共通研究テーマ これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成

育成を目指す資質・能力(学習指導要領より)

小学校図画工作

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

中学校美術

- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

指導上の課題

- 児童・生徒が学習の意義や価値を感じ、活動意欲を高めるための手だての充実
- 児童・生徒が表したいことを思い付いたり、主題を生み出したりするための手だての充実
- 児童・生徒が造形的な視点を持ち、自己の表現を追求し高めていくための手だての充実(基礎研究)
- 「実態調査」
- 「平成 24・25 年度 小学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)
- 「平成 25 年度 中学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)
- 「平成 25 年度 学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点」(国立教育政策研究所)

目指す児童・生徒像 自分らしく表現したり追求したりする児童・生徒

【育成を目指す具体的な児童・生徒像】

- 学習に自分なりの意義や価値を見いだして、意欲的に学ぶ児童・生徒
- 自分の思いや考えを大切に、表したいことや主題を生み出す児童・生徒
- 主題や表現を捉え直しながら、自分の表現を追求する児童・生徒

研究主題 自分らしく表現したり追求したりする児童・生徒の育成

研究の視点 (1)「活動意欲を高める」 (2)「主題を生み出す」 (3)「主題を深める」

研究仮説

題材において、「活動意欲を高める」、「主題を生み出す」、「主題を深める」手だてを計画的、効果的に行うために、「手だて表」を用いて児童・生徒を取り巻く環境などから手だてを整理し、授業を行うことにより、児童・生徒は自分らしく表現したり追求したりできるようになるだろう。

研究の方法

- 基礎研究
- 実践研究
 - 「手だて表」の作成
「(1)『活動意欲を高める』」、「(2)『主題を生み出す』」、「(3)『主題を深める』」児童・生徒の姿を基に、「手だて表」に手だてを整理する。
 - 手だてを明確にした指導計画の作成
「手だて表」に整理した手だてを指導計画に反映し、児童・生徒の学習過程に応じた最適な手だてを行う。
 - 手だての検証
授業において、児童・生徒が自分らしく表現したり追求したりする姿を見取ることにより、「手だて表」を用いて整理した手だてが計画的、効果的であったかを検証する。

デジタル機器の活用

自己の考えをまとめたり活動を振り返ったりする場面や、多様な考えや表現を共有する場面において、一人1台端末などのデジタル機器を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に図る。

2 検証授業①

(1) 題材名 「動物の脚に思いを重ねて」(中学校第2学年)

「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ) 「B鑑賞」(1)ア(ア) [共通事項](1)アイ

(2) 題材の目標

- ・ 形や色彩、材料などの性質が感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、動物の骨格や筋肉などの形や動き、場面を全体のイメージで捉えることを理解し、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。
- ・ 自分の性格や心情を見つめ、感じとったことや考えたことを、動物の脚の形や仕草に結び付け、主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考え、構想を練ったり、創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めたりする。
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の内面や感情を基に表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

(3) 題材の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、材料などの性質が感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、動物の骨格や筋肉などの形や動き、場面を全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫して、制作の順序などを考えながら、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>発 自分の性格や心情を見つめ、感じとったことや考えたことを、動物の脚の形や仕草に結び付け、主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、構想を練っている。</p> <p>鑑 動物の骨格や筋肉の造形的な特徴などからよさや美しさなどを感じとり、作者の表現の意図や創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の内面を見つめ、感じとったことや考えたことなどを基に形や色彩の効果を考え意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなど、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(4) 手だて表

研究の視点	生徒像	具体的な手だて
高める	「活動意欲を高め、学習に自分なりの意義や価値を見いだす意欲的に学ぶ生徒」	<p>① プレゼンテーションソフトを使用した鑑賞や制作段階が分かる参考作品の提示などにより、生徒が制作の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>② 生徒が題材に興味をもつことができるよう、動物の骨格や筋肉などの形、仕草、場面を想起できる資料を提示する。</p> <p>③ 生徒が自分のイメージに合う動物を見付けることができるようフローチャートを提示する。</p> <p>④ フローチャートや動物の資料を見せ「この性格だったらどんな動物？」と問い掛け、様々な角度から考えることができるようにする。</p>

<p>(2) 「主題を生み出す」</p>	<p>自分の思いや考えを大切に、表したいことや主題を生み出す生徒</p>	<p>① 生徒の心情を発想につなげるために、生徒の思考の過程に沿って内容を構成した「主題を生み出すためのワークシート」(図2)を提示する。 ② アイデアスケッチを複数描くことができる場面を設定する。 ③ 「自己分析は進路にもつながるため、自分を客観的に見てみよう。」「どのような自分も、自分の姿として受け止めよう。」などの声掛けを行うことにより、自己と結び付けて主題を生み出すことができるようになる。 ④ 生徒が自己の活動を振り返り、次の活動の見通しを明確にもつことができるよう、「振り返りシート」を提示する。</p>
<p>(3) 「主題を深める」</p>	<p>主題や表現を捉え直しながら、自分の表現を追求する生徒</p>	<p>① 新たに考えたことを加えたり、描き直したりして、生徒が表現を追求できるよう、ワークシートを提示する。 ② 生徒4人から5人グループの対話により、動物の仕草や場面の工夫、使う材料や意図する場面などを助言し合い、生徒が自分の表現を捉え直し、追求できるようにする。 ③ 「表したいことが伝わる形や仕草、場面になっているでしょうか。助言し合おう。」など、表現の工夫を引き出すための問い掛けを行う。 ④ 教師が「どのような仕草・場面なら思い描いた感じになるだろうか。」「何の材料をどのように用いたら表現できるだろうか。」と問い掛けることにより、生徒が対話から主題を深めることができるようになる。 ⑤ 生徒同士で作品を鑑賞する活動を取り入れることにより、表し方のよさや面白さを見付けたり、自分の活動を振り返ったりして主題や表現を捉え直すことができるようになる。</p>

(5) 題材の指導計画と評価計画(全10時間)

○・・・指導に生かす評価の開始 ◎・・・記録に残す評価

次	時間	学習活動 ねらい	手だて	評価の観点と評価方法					備考
				知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
				知識	技能	発想や構想	鑑賞		
第1次	1	鑑賞から表現方法や素材、立体表現の種類を理解し、制作の順序について見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 彫刻作品の種類や素材、制作方法を理解しよう。 作品のよさや違い、作者の意図や工夫、仕草や場面に気付き、制作のイメージをつかもう。 </div>	(1) ①② (2) ③	○			○	↓	第1時は、「知識・技能」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で生徒の学習状況を把握し、指導に生かす。
第2次	2	自分の性格や心情を形や色彩に表してアイデアスケッチを行い、主題を生み出す。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の性格や心情と動物の脚を結び付ける。 自分の性格や心情からイメージした動物の脚の仕草を調べる。 表そうとしている仕草や場面について、学級で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>性格や心情を基に、動物の脚の形や仕草、場面に結び付け、主題(表したいこと)を生み出そう。</p> </div>	(1) ③④ (2) ①②③④ (3) ①			○ ワークシート	◎ ワークシート	↓	第2時は、「思考・判断・表現」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で生徒の学習状況を把握し、指導に生かす。

第3次	3	生徒同士の対話を通して、主題を捉え直す。 ・ 対話により、造形的な視点から仕草や筋肉の付き方、場面、色彩などを捉え直し、アイデアスケッチの修正を行い、エスキースを描く。 ・ 付け加えたことや変更したことが分かるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 造形的な視点（形や色彩、材料など）からアイデアを見直し、主題と構想を練り直そう。 </div>	(2) ②④ (3) ②③④		◎ ワークシート	○			第3時から第9時までは、「思考・判断・表現」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で生徒の学習状況を把握し、指導に生かす。 「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、第9時に記録に残す。	
第4次	4 5 9	土台を作成し、粘土で制作する。 ・ エスキースを基に針金、モールなどを使い、芯材の成形を行う。 ・ 制作方法や順序を考えながら、形の成形を行う。(塑造) ・ 形を成形(彫造)する。 ・ 成形が終わった粘土への着色を行う。	(2) ④ (3) ④⑤	◎ 作品	◎ 作品	◎ 作品	○ 対話		◎ 作品 ワークシート	
第5次	10	鑑賞会を行い、振り返りをする。 ・ 制作についてまとめ、表現の意図や工夫などについて対話を通して伝え合い、見方や感じ方を深める。 ・ 自分なりの主題を追求し表現できたかななどを振り返る。	(2) ④ (3) ⑤				◎ ワークシート		◎ ワークシート	第10時は、「思考・判断・表現」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で生徒の学習状況を把握し、記録に残す。

(6) 教材・教具

ア 生徒：タブレット端末、筆記用具、教科書、資料集、色鉛筆、粘土(木粉粘土)、アクリル絵の具、針金、輪ゴム、モールなど

イ 教師：大型投影機(プロジェクター)、ワークシート、粘土(木粉粘土)、参考作品、粘土べら等の成形用具、ラジオペンチ、モール、輪ゴム、ガンタッカーなど

動物の姿に思いを重ねて

目標：自分の性格や心情を身に動物の顔の形や仕草、構図に結び付け、主題「表したいこと」を生み出す。

主題を生み出そう！

自分を見つける 性格 夢っていること こんな経験がある 自分のよいところ こんな人になりたい	友達に聞いてみよう
--	----------------------------------

スバリ！
イメージした動物は 理由






自分が描いた動物は、どこに何を表している？

自分の主題（表現したいイメージ） 例：夢に向かって飛びあがる水辺のガラスの靴の後ろ顔
主題
理由

(図2) 主題を生み出すためのワークシート

(7) 生徒の様子

ワークシートや友達との対話により、自己の表現を捉え直し、主題を深めた例

第2次	 <p>【アイデアスケッチを行う】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動意欲を高める手だてとして用意したフローチャートにより、題材を自分ごととして捉えて取り組んでいた。 生徒の思考の過程に沿って内容を構成した「主題を生み出すためのワークシート」により、自己分析からアイデアを考え、主題を生み出していた。
第3次	  <p>【エスキースを描く】 【主題を捉え直す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達との対話から自己と主題を結び付け、主題を生み出し、深めていた。 新たに考えたことを加えたり、描き直したりして表現を追求できるようにしたワークシートにより、主題を深めていた。
第4次	 <p>【粘土で制作する】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動途中の鑑賞により、友達の成形方法や着色方法を見て、改めて自己の表現を捉え直すことができていた。 土台や毛並みの表現にニードルや歯ブラシなどを用いて表現を追求し、主題を深めていた。
第5次	 <p>【鑑賞会を行う】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の鑑賞活動及び対話を行ったことにより、自他の見方や感じ方に価値を見だし、互いの活動を尊重する姿が見られた。

(8) 検証授業①の考察

研究の視点	見取った生徒の姿	○成果 ●課題
(1) 「活動意欲を高める」	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動や制作段階が分かる参考作品の提示、フローチャートにより、生徒は活動意欲を高めていた。 友達に助言をもらってから描いたエスキースは、アイデアスケッチに比べ、関節や筋肉を意識して脚が描かれており、生徒の「表現したい」という気持ちを、筆圧や手の動きから見取ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材の魅力を生徒が感じ、活動の見通しをもつことができるような導入の工夫により、「学習意欲を高める」ことができた。 ○ 対話は、「活動意欲を高める」ことにも有効であった。
(2) 「主題を生み出す」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の思考の過程に沿って内容を構成したワークシートを用いて自己について考える場面や、考えたことを生徒同士で対話する場面を設定することにより、生徒は主題を生み出すことができた。 ● 対話により友達の意見に左右される生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の思考の過程に沿ってワークシートを構成し、用いることは、主題を生み出すことに有効であった。 ● 対話は、生徒が表現の意図を明確にしてから行うことが課題であった。
(3) 「主題を深める」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対話により、生徒は自己とは異なる視点から助言を得ることができていた。「振り返りシート」では、作品制作に自信をもつことができたという記述などがみられた。 ● 友達の表現の意図を適切に把握しないまま、対話を行う様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話のタイミングを適切に設定し、表現の意図を共有してから行うことが課題であった。

3 検証授業②

(1) 題材名「へんしんアルミ」(小学校第5学年)

「A表現」(1)イ、(2)イ 「B鑑賞」(1)ア [共通事項](1)ア、(2)イ

(2) 題材の目標

- ・ アルミ缶を切ったり組み合わせたりしながら、形や色による構成の美しさや組み立てのバランスなどについて理解する。
- ・ 表現に合わせて適切な用具を選び、効果や可能性を確かめ、それを生かして活用するなどして、工夫して表す。
- ・ アルミ缶を切ったり組み合わせたりしながら感じた形や色などの造形的な特徴を基に、想像したことから表したいことを見付け、形や色による構成の美しさや、組み立てのバランスなど、主題をどのように表すか考える。
- ・ アルミ缶の形や色、表現の特徴などを捉え、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、見方や考え方を深める。
- ・ つくりだす喜びを味わい、材料の形や色、表現の特徴などを捉え、表現したり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとする。

(3) 題材の評価規準

(1)知識・技能	(2)思考・判断・表現	(3)主体的に学習に取り組む態度
<p>知 アルミ缶を切ったり組み合わせたりしながら、形や色による構成の美しさや組み立てのバランスなどについて理解している。</p> <p>技 表現に合わせて適切な用具を選び、効果や可能性を確かめ、それを生かして活用するなどして、工夫して表している。</p>	<p>発 アルミ缶を切ったり組み合わせたりしながら感じた形や色などの造形的な特徴を基に、想像したことから表したいことを見付け、形や色による構成の美しさや、組み立てのバランスなど、主題をどのように表すか考えている。</p> <p>鑑 アルミ缶の形や色、表現の特徴などを捉え、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、見方や考え方を深めている。</p>	<p>態 つくりだす喜びを味わい、材料の形や色、表現の特徴などを捉え、表現したり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

(4) 手だて表

研究の視点	児童像 目指す	具体的な手だて
(1)「活動意欲を高める」	学 価値 ぶ 学習 児 に見 童 だ 自 分 な り の 意 義 や 意 欲 的 に	<p>① 何度も試行錯誤できるように、十分な量のアルミ缶を準備する。</p> <p>② 焼成した黒褐色のアルミ缶を提示して、色合いや触り心地、切った感触の違いなどを味わって活動できるようにする。</p> <p>③ リベットを提示し、げんうで叩きながら材料を組み合わせしていく楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>④ 様々な用具を提示することにより、児童が表したいことに合わせて選ぶことができるようにする。</p> <p>⑤ 用具や材料を試すための十分な時間を設定する。</p> <p>⑥ 振り返りにより、友達の活動のよさや面白さを共有し、造形的な視点から価値付ける。</p>

<p>(2) 「主題を生み出す」</p>	<p>自分の思いや考えを大切に 出して、表したいことや主題を 生み出す児童</p>	<p>① 接着剤を数種類準備し、様々な接着ができるようにすることより、児童が表したいことを実現できるようにする。 ② 切ったアルミ缶を提示し、「この方向から見たらどんなふうに見える?」、複数の材料を提示し、「この材料同士を組み合わせたらどんなことができそうかな?」、「どの方向から組み合わせる?」などと問い掛けることにより、児童の発想や構想を広げる。 ③ 児童の動線及び安全を確保した上で、材料・用具を教室中央に配置することにより、児童同士が行き来しながら互いの活動を見ることができるようになる。 ④ 友達の活動や視点を参考にできるよう、友達がつくりつつあるものを鑑賞しながら撮影し、学級で共有する時間を設ける。</p>
<p>(3) 「主題を深める」</p>	<p>主題や表現を捉え直し ながら、自分の表現を追求 する児童</p>	<p>① 「皆さんの作品はどんな場所にあるのが似合うかな?」、「どんな場所で使ったり飾ったりできるかな?」などと問い掛け、作品に合うような土台や空間、飾り方などを考えさせ、児童が表し方を追求できるようにする。 ② プラスチック製段ボールや針金を提示し、土台や空間づくりに用いたり、教室内に吊るしたりするなど、工夫して表すことができるようになる。 ③ 友達の作品を鑑賞し、表し方のよさや面白さを見付けたり、自己の作品を振り返ったりして主題や表現を捉え直すことができるようになる。</p>

(5) 題材の指導計画と評価計画 (全6時間)

○・・・指導に生かす評価の開始 ◎・・・記録に残す評価

次	時間	学習活動	ねらい	手だて	評価の観点と評価方法				備考	
					知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
					知識	技能	発想や構想	鑑賞		
第1次	1・2	<p>アルミ缶を切ったり、切った材料をペンチで曲げたりして変形してできる形を楽しむ。</p> <p>・ アルミ缶を切ったり曲げたりして、自分の気に入った形に変身させよう。 ・ リベットでアルミを組み合わせ、さらに変身させよう。</p>		<p>(1) ①②③④ ⑥</p> <p>(2) ③</p>			○	○	<p>第1・2時は、「技能」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。</p> <p>第3・4時は、「発想や構想」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。</p>	
第2次	3・4	<p>切ったアルミ缶の材料を組み合わせ、自分の思い付いたことを表す。</p> <p>アルミ缶を切ったり曲げたり、様々な用具で組み合わせたりして、自分の思い付いた形にさらに変身させよう。</p>		<p>(1) ①②④⑤ ⑥</p> <p>(2) ①②③④</p> <p>(3) ③</p>		○	○			

第3次	5・6	作品に合わせてプラスチック製段ボールで土台や空間を表す。	(1) ⑥	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	第5・6時は、「知識・技能」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。 「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。
		作品のイメージに合わせて、土台や空間に表すなど、表し方を工夫しよう。							

(6) 材料・用具

ア 材料：アルミ缶、陶芸窯で焼成したアルミ缶、プラスチック製段ボール、針金




イ 用具：万能ばさみ、リベット、げんのう、穴あけパンチ、ステープラ、ラジオペンチ、手袋、接着剤、カラーペン、養生テープなど

(7) 児童の様子

ア 作品1「古びたカメラ」 材料・用具、教師の問い掛けや友達との関わりから主題を生み出し深めた例

第1次		<ul style="list-style-type: none"> 焼成した黒褐色のアルミ缶を切った際に、内側の青くキラキラした色を見つけて気に入っていた。 焼成したアルミ缶の表面のざらざらした手触りから、紙やすりで磨くことを思い付いた。やすりがけによって、色が黒褐色から灰色や銀色に変わり、色の変化の面白さに気付いていた。 リベットを用いてアルミ缶を組み合わせ、様々な方向から見立てをしていた。 色の違いや手触り、色の組み合わせを考えながら、意欲的に活動していた。
第2次		<ul style="list-style-type: none"> ホットメルト接着剤を使用し、前時に加工した材料を組み合わせた。 教師の問い掛けを受け、垂直に立った形を様々な方向から見て、「不思議な植物」という主題を生み出していた。 第1次で試してできた部品や箱型に組み合わせた材料から、「古い昔の感じのカメラ」という主題を生み出していた。 2つの主題「カメラと植物」をどのように組み合わせようか悩む様子が見られた。
第3次		<ul style="list-style-type: none"> プラスチック製段ボールの上に、カメラと植物を組み合わせ、一つの空間として表すことを思い付いていた。 活動途中の鑑賞で見た友達の活動から、アルミ缶以外の材料を使用することを思い付いた。コーヒーフィルターや草をちぎって貼るなどして、表現を追求していた。 「振り返りノート」に、「古びた感じの空間を表すために、アルミ缶をやすりで磨いたり、プラスチック製段ボールに錆びた感じの色を塗ったりするところを頑張った。」と記述していた。

イ 作品2 「動く影」 十分な量の材料や様々な用具から主題を生み出し、友達の活動から主題を深めた例

第1次	 <p>【できた形を楽しむ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼成したアルミ缶の色を気に入り、様々な用具で切ったり曲げたりねじったりして意欲的に活動していた。 ・ アルミ缶を切ってできた形を見ながら、どのようなことが表せそうか考えていた。 ・ リベットを使用して、アルミのくねくねした線とギザギザした線を組み合わせ、幾何学的で抽象的な形と色のよさに気付いていた。
第2次	 <p>【思い付いたことを表す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ缶の側面を、らせん状に長く切り、第1次の材料と組み合わせていた。できた形を見て、揺れる動きに興味をもち、形のバランスを感じ取っていた。 ・ ホットメルト接着剤で材料同士を積み上げて組み合わせ、材料を揺らすと映る黒い影に着目し、主題を生み出していた。 ・ 振り返りでは、「できた作品を土台の上に並べたり組み合わせたりしてみたい。」と話し、次時の見通しをもっていた。
第3次	 <p>【土台や空間を表す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック製段ボールに作品を置いた際にできた影の形のよさに気付き、影を含めて作品を捉え直していた。 ・ プラスチック製段ボールに作品の影がよく映るよう、高さなどの表し方を考えていた。 ・ 活動途中の鑑賞で見た友達の活動から新たな表現を思い付き、土台に影の形に沿ってペンで色を塗り、幾何学的で抽象的な形の影を描き加えていた。

(8) 検証授業②の考察

研究の視点	見取った児童の姿	○成果 ●課題
(1) 「活動意欲を高める」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な用具を提示したことにより、児童は用具を選択しながらアルミ缶の形を自在に変えることができ、活動意欲が高まった。 ○ 活動の途中で焼成した黒褐色のアルミ缶を提示したことにより、色合いや触り心地、切った感触の違いなど、材料の特徴を感じとり、意欲的に活動することができた。 ○ リベットを提示したことにより、金床で叩きながら材料を組み合わせる行為が児童の興味を引き出し、意欲を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料や用具などを複数提示することにより、児童は材料や用具の特徴を十分に味わうことができ、活動意欲の向上につながった。
(2) 「主題を生み出す」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の途中で、作品などの具体物を提示し、様々な方向からの見え方などを問い掛けることにより、児童は材料の形を見立てたり、形や色の組み合わせを考えたりしながら、主題を生み出すことができた。 ○ 既習事項を踏まえ、様々な接着方法を提示したことにより、児童は様々な形の組み合わせを考えることができ、主題を生み出すことにつながった。 ● 友達の活動や視点等を参考にできるよう、第2次において一人1台端末のカメラ機能を使用した。端末の操作に時間を要し、鑑賞時間を十分に確保できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の問い掛けを適切なタイミングで行うことにより、「主題を深める」に加え、「主題を生み出す」ことにも有効な手だてとなった。 ● 一人1台端末の効果的な活用場面や活用方法の検討が課題であった。

<p>(3) 「主題を 深める」</p>	<p>○ 第3次の導入において、作品の置き方や飾り方を問い掛けたことにより、児童が自己の作品を見直すことができた。</p> <p>○ 第3次でプラスチック製段ボールや針金を提示したことにより、作品の土台にしたり、空間をつくったり、吊るしたりするなど、児童が自己の主題に合わせて表現を追求することができた。</p> <p>○ 活動の途中で相互鑑賞を取り入れたことにより、児童は、友達作品のよさや面白さを見付けたり、自己の作品を振り返ったりして、表現を捉え直していた。</p>	<p>○ 制作過程に応じて材料や用具を適切なタイミングで追加することにより、児童は新たな表現を追求し、主題を深めることができた。</p> <p>○ 相互鑑賞などにおける対話を通して、児童は自己の主題や表現を捉え直すことができた。</p>
------------------------------	--	--

VI 研究の成果と課題

本研究では、題材において、「活動意欲を高める」、「主題を生み出す」、「主題を深める」手だてを計画的、効果的に行うために、「手だて表」を用いて児童・生徒を取り巻く環境などから手だてを整理し、授業を行うことにより、児童・生徒が自分らしく表現したり追求したりする姿を見取ることができた。

研究の視点に沿って成果と課題を以下のとおりにまとめた。小学校図画工作科及び中学校美術科の授業において、成果は有効な手だてとして活用し、課題については今後の授業改善の視点として取り組んでいく。

1 成果

(1) 「活動意欲を高める」

- 導入において、デジタル機器を活用し、児童・生徒の生活、歴史や文化、他の教科などと関連した作品や資料を提示し、表現と鑑賞の指導の関連を図ることにより、児童・生徒は、題材を生活や社会と関連して見つめ、自分ごととして捉え、活動意欲を高めることができた。
- 材料や用具、表現方法などを複数提示したことにより、児童・生徒は主題や表し方を考え、意欲的に活動することができた。

(2) 「主題を生み出す」

- 児童・生徒の思考の過程に沿って内容を構成したワークシートにより、主題を生み出すための思考を促すことができた。
- 材料や用具の特徴を感じ取る時間や、相互鑑賞の設定により、児童・生徒は主題を生み出すことができた。

(3) 「主題を深める」

- 児童・生徒が、造形的な視点を基に自己の表現を捉え直すことができるような教師の問い掛けを適切なタイミングで設定することにより、児童・生徒の更なる工夫を引き出すことができた。
- 相互鑑賞などにおいて対話を設定することにより、児童・生徒は新しい視点を得て、自己の表現に自信をもったり、自己の主題や表現を捉え直したりすることができた。
- 制作過程に応じて材料や用具を追加することにより、児童・生徒は新たな表現を追求

し、主題を深めることができた。

(4) その他

- ・ 対話的な学びは、「主題を深める」だけでなく「活動意欲を高める」、「主題を生み出す」ことにも有効な手だてとなった。対話の際は、児童・生徒が自分の考えや意図をもってから行うよう留意する必要がある。
- ・ 教師の問い掛けは、「主題を深める」だけでなく、「主題を生み出す」ことにも有効な手だてとなった。

2 課題

- ・ 児童・生徒は主題や表現を追求し、授業の中盤以降にもつくりかえることがあった。児童・生徒が自らの学習を調整しながら、主題を深めていくことができるよう、個に応じた指導の充実を図る必要がある。
- ・ 児童・生徒が、自己の課題や目標を見いだすなどして、次時の学習に見通しをもつことができるよう、更なる振り返りの充実に取り組む必要がある。児童・生徒が自らの学習状況を把握するために、一人1台端末を活用して自己の作品を撮影し、主題や表現を捉え直すことなどが考えられる。
- ・ 学習指導要領改訂に当たり、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」(小学校図画工作)、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」(中学校美術)が一層重視されたことから、生活や地域の特徴と関連付けた題材、関係機関などと連携した題材の設定により、児童・生徒が学習を生活や社会と結び付け、学習の意義や価値を実感できるような取組を推進することが課題である。

令和4年度 教育研究員名簿

小・中 合同・図画工作・美術

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段小学校	主任教諭	◎大高美和
北区立田端小学校	主任教諭	後藤 亮子
練馬区立大泉小学校	主任教諭	河村 泰正
日の出町立本宿小学校	主任教諭	向山 依里香
中野区立中野東中学校	主任教諭	河内 智香子
東久留米市立中央中学校	主任教諭	高橋 佳来
西東京市立ひばりが丘中学校	主任教諭	加瀬 真実

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 荒井 香織

令和4年度
教育研究員研究報告書
小・中 合同・図画工作・美術

令和5年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849